

Artist in Residence

紀南アートウィークでは、2023年の紀南アート・レジデンス Vol.1に引き続き紀南アートレジデンスVol.2、Vol.3を開催しました。国内外からアーティストを招聘し、紀南地域に滞在してもらう中で、地域の様々な文化や歴史などについてのリサーチを行い、そこから触発された作品制作やアート・プロジェクト等を展開するプログラム。毎年1名～2名程度のアーティストの募集を行う予定です。

「紀南アートレジデンス vol.2」

ヘアート・ムル Geert Mul

ヘアートは、オランダを代表するメディア・アートの先駆者であり、自然とテクノロジーの関係を思考しています。今回、南方熊楠に興味を持ち、オランダ政府の助成を得て、田辺市を中心とした紀南地域にて2か月間のリサーチと撮影を行いました。そこから生まれる新作は2025年以降に発表される予定です。



「紀南アートレジデンス vol.3」

黒木 由美 KUROKI Yumi

福岡出身の陶芸作家の黒木を招聘。田辺市内に滞在中に、紀南地域の柑橘農家から入手した枝や実をはじめ、地域の様々な素材を焼却し、その灰を釉薬として利用して作品制作を行いました。紀南の柑橘素材と黒木のコラボレーションにご期待下さい。



協賛



株式会社紀陽銀行 白浜支店 株式会社高垣工務店 一般社団法人 トーワ荘 株式会社Trafic Confort
株式会社瀨田 株式会社モリカワ 有限会社龍神自然食品センター 木村 剛大 多田 稔子 玉置久嗣 Bar Oct.

開催概要

タイトル: いごくたまる、またいごく

日程: 2024年9月20日(金)～29日(日) 10日間 時間: 各会場による 料金: 無料(一部施設入場料が必要な会場あり)

会場: 和歌山県紀南地域(田辺市・白浜町)

田辺エリア(メイン展示): 南方熊楠顕彰館、SOUZOU、Breakfast Gallery、闘雞神社、市街地の野外展示(複数箇所)

白浜エリア(連携企画): 南方熊楠記念館、アドベンチャーワールド、川久ミュージアム、三段壁洞窟、ノンクロン(Shinju)

主催: 紀南アートウィーク実行委員会 助成: 公益財団法人 福武財団 後援: 和歌山県、田辺市、田辺市教育委員会、白浜町、紀伊民報、FM TANABE

キュレーション: プロダクション・ゾミア、五十嵐 純

協力(五十音順): アドベンチャーワールド、アトリエもじけハウス、堅田保育園、堅田第二保育園、川久ミュージアム、きたがわ梅園、キノクマ座、霧の里たかはら、K型チョコレートカンパニー、小山登美夫ギャラリー、ColoGraphical、三段壁洞窟、SHIOGORI CAMP 実行委員会、Shinju、SOUZOU、田辺・西牟婁美育研究会、多屋由紀子、十秋園、闘雞神社、トーワ荘、尖農園、株式会社 南紀白浜エアポート、西嶋不動産、日動コンテンポラリーアート、日本聖公会田辺学園シオン幼稚園、Breakfast Gallery、丸義精肉店、みかんソサエティ、公益財団法人 南方熊楠記念館、南方熊楠顕彰会、アウラ現代芸術振興財団、Artport株式会社、coamu creative

KINAN ART WEEK 2024

2024. 9/ 20 Fri ▶▶ 29 Sun



Igoku Tamaru : lives without boundaries

KINAN ART WEEK 2024

いごくとまる、またいごく

Igoku Tamaru : lives without boundaries

「いごくとまる、またいごく」。これは和歌山県紀南地方の方言で『動き、集まり、また動く』ことを意味します。紀南地域が誇る大博物学者・南方熊楠が生涯を通して研究していた粘菌は、ある時は動物のように動き、またある時は植物のように留まり（集まり）、そして、ときには孢子となって新たな場所に向かう習性をもっています。このように粘菌は、その姿を常にダイナミックに変えながら環境に適応して生きています。そして、粘菌や植物の土台となる土は、生物の遺骸や微生物などの絡まり合いから生まれるように大きな循環の中にあります。

私たち人間や地球もまた、長い歴史の中で移動し、集合し、移動を繰り返してきました。その結果、国家や民族が生まれ、進化や発展を遂げる一方で思想や民族間対立による破壊も生じています。現在の二極化や領土争いが激化するこの世界も、粘菌の世界のように変化や移動の過程にあると思えば、私たち人間が持ち得る自由さを再び見出すことができるのではないのでしょうか。

紀南アートウィーク2024では、田辺市の4会場と屋外展示、そして白浜町の5会場で行われる関連展示を含めた全10会場が舞台となります。粘菌や土が教えてくれるその在り方のように、特定のある場所・ある視点・ある価値観などに留まらず柔軟に生きていくことを、アーティストの作品やワークショップなどの様々な体験を通じて、発見していくことを目指します。



Copyright(C)2024 ColoGraphical

AREA MAP



G 南方熊楠記念館
 白浜町3601-1
 10:00~17:00(最終入館16:30)
 木曜
 0739-42-2872

F 川久ミュージアム
 白浜町3745
 10:30~18:00
 無休
 0739-42-2662

I ノンクロン
 白浜町堅田1385-1
 真珠ビル1階
 10:00~20:00
 月曜
 0739-33-2196

H アドベンチャーワールド
 白浜町堅田2399
 10:00~17:00
 不定休
 0570-06-4481

J 三段壁洞窟
 白浜町2927-52
 8:00~17:00
 無休
 0739-42-4495



A 南方熊楠顕彰館
 田辺市中屋敷町36
 10:00~17:00(最終入館16:30)
 月曜・第2第4火曜、祝祭日の翌日
 0739-26-9909

B Breakfast Gallery
 田辺市中屋敷町54-2
 10:00~17:00
 展示期間中は無休

C SOUZOU
 田辺市中屋敷町70-1
 10:00~17:00
 展示期間中は無休

D 闘雞神社
 田辺市東陽1-1
 無休

Time schedule

	7月	8月	9月	9/20	9/29	10月	11月	12月		
A 南方熊楠顕彰館	20	21	22	23休 24休	25	26	27	28	29	
B Breakfast Gallery	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
C SOUZOU	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
D 闘雞神社	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
E 市街地野外 複数箇所	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
F 川久ミュージアム「水の越境者(ゾーミ)たち」展	9/6~10/14									
G 南方熊楠記念館「南方熊楠と粘菌・アート」展	7/1~9/23 ~9/29 ※一部特別延長									
H アドベンチャーワールド「あわいの島」展	9/13~12/29									
I ノンクロン「種を蒔く」展	9/20~10/31									
J 三段壁洞窟「Breathing」展	恒久展示									

現代アートと巡る白浜観光トリップ

9月22日(日)、23日(月祝)、29日(日)限定、白浜エリアバスツアー!!
 田辺エリアの会場は、徒歩圏内で巡ることが可能ですが、白浜エリアは、効率よく巡るためには自動車等の移動手段が必須になります。私たちは田辺観光バスと連携し、白浜の代表的な観光名所と白浜エリアの展示を半日で一気に巡るツアーを企画しました。現代アート鑑賞とともに、白浜観光名所を堪能しませんか。

締切は、各ツアー日の10日前まで!

申し込み:
 ティー・シー・トラベル
 電話:0739-43-1133
 FAX:0739-43-1317
 mail:info@tk-bus.jp
 受付時間:平日9:00~17:00



A 南方熊楠顕彰館 | 粘菌:うごく、とどまる

和歌山県が生んだ日本を代表する知の巨人、南方熊楠。民俗学や哲学、自然信仰についても関心を持った熊楠の探究心は、いまなお多くのアーティストに影響を与えています。その熊楠が残した蔵書・資料を恒久的に保存し、熊楠に関する研究を推進する顕彰館では、熊楠が生涯を通じて研究した粘菌の世界やその思想に共鳴する作品を展示します。



ヘアート・ムル Geert Mul

ロッテルダム在住

デジタルアートのバイオニアとして、自然とテクノロジーを巡る探求を行い、版画、映像、映像技術を活用したインスタレーションなど、幅広いメディアで実験的な作品を発表している。本展では、自然の中で撮影した写真とAI技術を用いて新しい画像・動画を生成した作品を展示します。



廣瀬 智央 HIROSE Satoshi

ミラノ在住

日常の体験や事物をもとに、新しい価値の創出や世界の知覚を刷新する表現をつくりだしている。紀南アートウィークでは「commons農園」プロジェクトを2021年から始動している。本展では、南方熊楠の「萃点(すいてん)」に触発され、制作した作品を発表します。



山田 汐音 YAMADA Shione

岩手在住

《粘菌研究》は、秋田公立美術大学と秋田市大森山動物園の共同プロジェクト「大森山アートプロジェクト 2020」において制作された。粘菌(変形菌)の動きに着目し、人間によって再現することを試みた本作は、肉眼では見ることが難しいミクロの世界をユーモラスかつダイナミックに伝えてきます。

B Breakfast Gallery | 変わり続けるかたち

変わらないと思いついでいるほとんどの事象も、人間の時間軸や観念から引き離すことで変化の中にあることに気づかされます。大きな生態系の中で見ることで、すべてのものごとは循環の中にあると考えることができ、既存の価値観によって固定される社会的な属性からも自由になることができるのではないのでしょうか。



コン・ダラー Kong Dara

ブノンペン在住

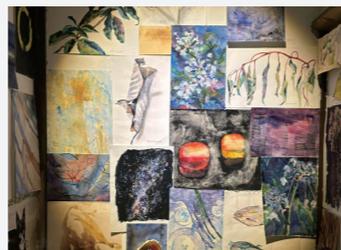
ドローイング、彫刻、インスタレーションなど、メディアを横断して作品を制作。個人的な経験、記憶、感情を調査し、しばしば社会変化やLGBT+コミュニティについて考察している。出品作《Non-binary》は、生における変化や成長をイメージさせつつも、同時に既存の枠組みにとどまらない未分化な状態を想起させます。



黒木 由美 KUROKI Yumi

仙台市在住

陶芸作家。「生きるだけのいきもの」をテーマとし、窯の中の焼成を生かした釉薬による造形表現を追求している。本展にむけた事前リサーチにおいて、田辺市を中心に農場で出た枝や葉などから灰を作り、それらを釉薬として用いた新作を発表します。



杵村 直子 KINEMURA Naoko

田辺市在住

和歌山県田辺市生まれ。画家として、平面における空間性を探究している。本展では、粘菌の増殖性に着想を得て、制作期間中に会った人々によって描かれた菌類を作品に組み込んだ新作を発表するほか、杵村が日々描き続けている作品群などを展示します。

C SOUZOU | 留まるという抗い

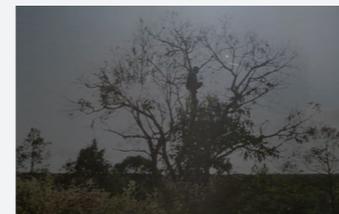
「SOUZOU(ソウゾウ)」は、本展出展作家の杵村直子と杵村史朗によって築90年以上の古民家を修繕し、アトリエやカフェとして運営されています。ここでは、現在急速な発展を遂げるメコン経済圏のアーティストたちの作品を中心に紹介します。彼らの眼差しは、かつての日本の高度経済成長期に誰もが目を向けたような輝かしい未来にむかうのではなく、今目の前の失われていく自然や変わりゆく都市空間について詩的に表現しています。



タイキ・サクピシット Taiki Sakpisit

バンコク在住

ストーリーテリングへの革新的なアプローチと、タイの複雑な歴史に対する深い探求で知られている。本作は、「夏」「ボール」「楽園」「地球」「再び地球へ」という五部構成で構成されており、幻想的でありながらも不穏さが漂う映像表現で現代タイの緊張感を示しているようでもあります。



チュオン・コン・トゥン Truong Cong Tung

ホーチミン在住

科学、宇宙論、哲学、環境の研究に関心を持ち、多様なメディアを駆使して、文化や地政学的変化を反映させた作品を制作している。本作は、ベトナムの中央高原地方の日常の様々なシーンで構成していますが、混沌とした現実的な夢のように描くことで、急速な発展の中で崩れつつある秩序を予感させます。



カニータ・ティス Kanitha Tith

ブノンペン在住

彫刻やパフォーマンス、インスタレーションなど多様なメディアを用いて領域横断的に作品を制作している。カンボジアで日常的に見ることができ、細い金網を用いて編み込まれた彫刻作品は、手作業で作られており、その制作過程における限想的ともいえる思考の時間を想起させます。



AWAYA(あわ屋)

中辺路在住

福島正知を中心としたサウンドアート・コレクティブ。日常に潜む宇宙の神秘や生命の不思議を独特の音世界で表現した「音のアート作品」を制作。本展では、音という刺激を受けた対象が発生させる波動をテーマとした新作インスタレーションを発表します。

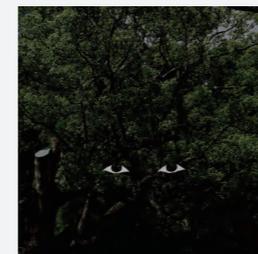
今年の紀南アートウィークは、まちなかへと広がっていきます。移動とは領域を超え続けること。誰かの土地に侵入し、出ていくことの連続であり、歩くことのできる場所のほとんどは、個人や国などに属します。しかし、例えば普段人が足を踏み入れない森のような場所に立った時、いろいろな属性から解き放たれて、その場所と対峙したような経験はないのでしょうか。表現に出会い、感性を開くことは、今いる場所の固定化された意味からも解放してくれるかもしれません。

D 闘鶏神社

久保 寛子 KUBO Hiroko

千葉県在住

先史芸術や民族芸術、文化人類学の学説のリサーチをベースに、身の回りの素材を用いて彫刻作品を制作する。本展では、田辺市を中心にリサーチを行い、制作した新作を発表します。自然との境界で突如現れる「目」は、どのような存在を想像させるのでしょうか。



E 市街地野外 複数箇所

杵村 直子

KINEMURA Naoko

田辺市在住

本展では屋外も会場の一つとなります。杵村が日々、描きためている作品の中から、数点がまちなかで展開されます。偶然、粘菌の胞子のようにアートと出会う体験は、鑑賞者にどのような体験をもたらすのでしょうか。



F 川久ミュージアム | 「水の越境者(ゾーミ)たち」展 9/6(金)～10/14(月祝)



川久ミュージアムの特異な場所性を活かしながら、東南アジアから日本列島へと繋がる「水の物語」を紡ぐ展覧会『水の越境者(ゾーミ)たち』展を開催します。紀南アートウィークが、本展のディレクション、キュレーションを行います。

クヴァイ・サムナン、ティタ・サリナ、リム・ソクチャンリナ、ゴック・ナウ、メッチ・スレイラス&メッチ・チョーレイ、山内光枝

- 開館時間：10:30～18:00 ● 休館日：なし
- 主催：川久ミュージアム
- キュレーション：紀南アートウィーク実行委員会
- 料金：施設入場料あり ※ガイドブック持参で特別割引あり

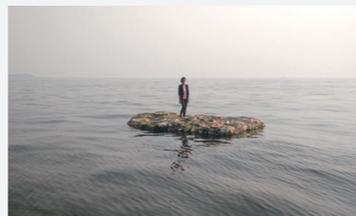
<作品紹介>



潮汐(2012-2021) / Tides (2012-2021)
山内光枝



ポピル / Popil(2018)
クヴァイ・サムナン



1001番目の島-群島の中で最も持続可能な島(2015)
ティタ・サリナ



海への手紙(2019)
リム・ソクチャンリナ



母なる川(2021)
メッチ・スレイラス&メッチ・チョーレイ



信仰のために踊るのか?(2017)
ゴック・ナウ

G 南方熊楠記念館 | 「南方熊楠と粘菌・アート」展 7/1(月)～9/29(日)

※29日(日)まで一部特別延長



南方熊楠記念館では、「粘菌(変形菌)」を切り口に、熊楠が粘菌を通じて交流をした若手研究者との書簡や標本の展示と、粘菌をモチーフとした様々なアーティストの作品展示、関連イベントを実施しています。9月23日以降は紀南アートウィーク期間に合わせた特別企画として、一部の作品を期間延長して展示する予定になっています。

マメホコリ工房、赤城美奈、秋田公立美術大学粘菌研究クラブ、sizle play on words、たねいねりえこ、服部暁子、立石京子、space kigi caeru

- 開館時間：9:00～17:00 (入場は16:30まで)
- 休館日：毎週木曜日
- 料金：施設入場料あり

<作品紹介(一部)>

粘菌ねぶた(2024) 秋田公立美術大学 粘菌研究クラブ

群生する粘菌の子実体は、顕微鏡で覗くと実は一つ一つ微妙に異なる。本作の大小14個の子実体は、全てあえて不揃いな形にし、子実体が持つ個性とリズム感を演出している。また子実体の表面の和紙には粘菌の象徴とも言える黄色の絵の具をドリップペイントしており、無意識の衝動によって垂らされた絵の具は、奇妙な粘菌の変形体の脈の動きを表す。



H アドベンチャーワールド | 「あわいの島」展 9/13(金)～12/29(日)



紀南アートウィークとも縁の深い前田耕平氏が、「動物園の未来」に関して、2年間に渡り、アドベンチャーワールドの飼育員の皆さんとともにリサーチを行い、そのリサーチに基づいて制作された新作を展示します。アドベンチャーワールドが展開する「動物園未来ラボ」においては、動物園のこれからの存在意義を社会に問い、「いのちの循環」のデザインをともに考える活動として、多様な分野のアーティストとのコラボレーションを進めています。



- 開館時間：10:00～17:00
- 休館日：不定休
- 展示場所：アドベンチャーワールド内センタードーム2F
- 料金：無料 ※ガイドブック持参で1時間入園無料
- 主催：アドベンチャーワールド
- 共催：紀南アートウィーク実行委員会

<作品紹介>

あわいの島(2024) 前田耕平

動物と人間、自然と人工、娯楽と教育、集団と個人をはじめとして動物園とその仕事を取り巻く環境は、両極端を結び合わせようとする営みの中で育まれてきた。決して二項対立になり得ないこれらの事柄の「あわいの島」を前田の独自の視点で捉え、アドベンチャーワールドをまさしく冒険するように制作した映像作品「あわいの島」とプロジェクトのアーカイヴや撮影で使用した衣装などの制作プロセスも公開される。

I ノンクロン | 「nongkroong一種を蒔く」展 9/20(金)～10/20(日)



白浜駅前のオルタナティブ・スペース「ノンクロン」にて、アウラ現代芸術振興財団のコレクションを使用し、同スペースのオーナー・尾崎 寿貴氏のキュレーションによって参加型の現代アート展示を実施し、白浜の未来について問いを提示します。

- 開館時間：10:00～20:00
- 休館日：毎週月曜日 ● 料金：無料
- 主催：紀南アートウィーク実行委員会
- キュレーション：尾崎 寿貴(Salon Shinju オーナー)

<作品紹介>

無題 Untitled(2022) 廣瀬智央
みかんの枯れ木が組み合わされて、針金、グルー、ビーズが複雑に絡み合う状態で構成されている作品。この作品は天井から宙吊りにされた状況にあり、見る角度によってさまざまな表情と輝きを見せるその状態は、見えない関係性を指し示しているようで、反転した根、南方マンダラやシナプスを想起させる。



包まれた未来 2 WRAPPED FUTURE II(2019)
リム ソクチャンリナ

同作は、リムの現在進行中のプロジェクトで、ビル建設工事の際、現場を囲うために用いるフェンスを溪谷、森林に運び、美しいカンボジアの自然風景を遮るように作品の中心に登場させる。撮影された地域では近年、巨大なグローバル資本によって大規模開発の標的とされている地域であり、リムは地域文化やコミュニティが失われていく不穏な未来に警鐘を鳴らしているのだろうか。



J 三段壁洞窟 | 「Breathing」展 恒久展示



三段壁洞窟は、波に削られ創り出された海蝕洞窟であり、熊野水軍の船隠しの場でもありました。本作品は三段壁洞窟の支援のもと恒久設置作品として、前田耕平によって2023年に制作・設置されました。自然と人間の神秘を感じられる場所で、自然の壮大さ、脅威、畏敬の念に向き合うために生み出した「火」が、洞窟の穴から放出と吸収を繰り返します。

- 開館時間：8:00～17:00 ● 休館日：なし
- 料金：施設入場料あり ※ガイドブック持参で特別割引あり
- 主催：三段壁洞窟 ● 協力：紀南アートウィーク実行委員会

<作品紹介>

Breathing(2023) 前田耕平

前田が三段壁洞窟とその周辺環境へのリサーチを元に制作した映像作品が、洞窟内にて展示されています。「火」をテーマとしたその様態は、三段壁周辺の1時間毎の自然環境データ(気温、風速、波高)と音楽に合わせて常に変化し続け、洞窟内では自然の呼吸を体感できます。



9/19(木) 18:30~20:00

オープニングトーク

「エコロジーとアート—いま、粘菌性がなぜ重要か?」

参加費：無料
定員：20名tanabe en+
〒646-0031 和歌山県田辺市湊41-1

オープニング・トークでは、30年以上に渡りメディア・アートの第一線で活躍するキュレーターであり、美術評論家連盟会長の四方幸子氏をゲストスピーカーにお招きして、実行委員長の藪本雄登より本展覧会のコンセプトや作品説明を行います。エコロジーの先駆者である南方熊楠が眠るこの地において、エコロジー、哲学、そして、アートの視点から、人間的な視点を越えた共生的かつ創造的な実践について一緒に考えてみましょう。

ゲスト・スピーカー：四方幸子(しかた ゆきこ)

キュレーター／批評家、美術評論家連盟会長、「対話と創造の森」アーティストディレクター。多摩美術大学・東京造形大学客員教授等。「情報フロー」というアプローチから諸領域を横断する活動を展開。1990年代よりキャンノン・アートラボ、森美術館、NTTインターコミュニケーション・センターと並行し、先進的な展覧会やプロジェクトを多く実現。著書に『エコノフィック・アート 自然・精神・社会をつなぐアート論』(2023)。



9/23(月祝)

映画上映会「動いている庭」

参加費：¥1,500円(予約)、¥1,700円(当日券)

定員：20名

上映①16:00~17:30/上映②18:00~19:30

tanabe en+ 〒646-0031 和歌山県田辺市湊41-1

紀南地域でドキュメンタリー映画の上映企画を展開するキノクマ座と連携し、映画上映会「動いている庭」(澤崎賢一監督作品)を実施致します。庭師でありながら植物学者・昆虫学者そして作家でもあるジル・クレマンさんの言葉や姿勢は、あらゆる生物への敬意を感じつつ、人間が普段忘れがちな大事なことを思い出させてくれます。映画の舞台からは10年近く経て、今まさに観てほしい作品。和歌山初上映となります。

9/24(火)

SOUZOU世界の料理シリーズ
タイ料理参加費：2,500円
定員：各回10名
①11:30~13:00/②13:15~14:45

SOUZOU / AREA MAP-⑥

SOUZOU cafeで定期的に開催されている、ウクライナ出身、田辺在住の料理人マリヤさんによる世界の料理シリーズ。さまざまな国の人との出会いの中で知った料理をシリーズでお送りしています。今回は紀南アートウィークとのコラボ企画として、『いごくたまる、またいごく』展の出展作家にもなじみ深いタイ料理をお届けします。ご予約お待ちしております！

ご予約はSOUZOU cafeのインスタDM、
もしくは090-5491-9796まで

特別ゲストシェフ：山路マリヤ

ウクライナ出身で田辺在住のマリヤさん。さまざまな国の人々との交流の中で出会った各国の料理と文化を紹介するSOUZOU世界の料理プロジェクトを2023年11月より展開。



ジル・クレマン

庭師、修景家、小説家など、数多くの肩書きをもつ。植物にとどまらず生物についての造詣も深く、カメルーン北部で蛾の新種を発見している。庭に植物の動きをとり入れ、その変化と多様性を重視する手法はきわめて特異なもの。主な著作として、庭園論に『動いている庭』(1991年)、『惑星という庭』(1999年)、『第三風景宣言』(2004年)等。

ゲスト・アーティスト：
廣瀬智央(ひろせ さとし)

現在ミラノ在住。廣瀬は、イタリアを拠点に、インスタレーション、彫刻、写真等、そしてより大きな意味でのプロジェクトなどのメディウムを使い、詩的な作品を創り出す現代美術家。境界を越えて異質な文化や事物を結びつける脱領域的な想像力が創造の原理となっており、目に見えない概念を目に見えるものへと転換する試みが、廣瀬の作品に一貫してみられ、2021年より紀南で「コモンズ農園」プロジェクトを展開している。



9/29(日) 13:00~15:00

「またいごく」のチャイ

参加費：1,500円(チャイとお菓子、レターセットつき)
定員：10名

トワワ社 〒646-0028 和歌山県田辺市高尾1丁目2番14号

チャイ・アートプロジェクトは、ラワンチャイクン茉莉が主催するインドのスパイスと日本各地の素材を掛け合わせたチャイの開発・販売、関連するアート作品の制作とチャイ付きの展覧会・イベントを行うプロジェクトです。今回のチャイ・ワークショップでは、この「人／自分自身の『いごくたまる、またいごく』状態」へ意識を促すイベントを行います。

ゲスト・アーティスト：ラワンチャイクン茉莉

現代アーティストであるインド系タイ人の父と、美術館学芸員である日本人の母のもと、幼少期よりアジアの文化と世界のアートに触れて育つ。「アートを通して人をつなぎ、世界をより良い方向へと導く」をミッションに掲げアーティストとしての活動を開始した。現在は自身のルーツを反映させて、インドのスパイスと日本各地の素材を掛け合わせた「チャイ・アートプロジェクト」を展開している。



8/28(水) 20:00~21:30

みかんダイアログ vol.6

「微生物—不確定な時代を生きるアート」

参加費：無料

定員：なし

オンライン

アートや植物、微生物等を通して、人間と自然との関係性を深掘りするオンライントークセッション、みかんダイアログ第6弾！

田辺在住のアーティストである杵村直子さん、気候変動や植民地主義の問題を粘菌／微生物等を中心として世界を捉え直す実践を行っている環境アクティビストである酒井功雄さんをお招きして、近年、人文学の分野でも注目される「粘菌」や「微生物」を通じて、自然、社会、アートの関係性を再考します。

ゲストスピーカー：酒井功雄(さかい いさお)

気候変動を文化的・思想的なアプローチで解決するために、「植民地主義の歴史」と微生物を中心に世界を捉えなおす思索を行なっている環境アクティビスト。日本・東アジアで脱植民地主義を考えるZINE「Decolonize Futures—複数形の未来を脱植民地化する」エディター。2021年Forbes Japan 30 Under 30選出。

杵村直子(きねむら なおこ)

和歌山県田辺市生まれ。武蔵野美術大学卒業。画家。平面における空間性を探究している。365日、日常を描きオンラインに公開する「日々絵」シリーズからアナチンの著書「マツタケ」表紙絵に採用。海と空をその場で描きあげるシリーズなど、具象と抽象のはざまを描いている。また、子どもたちの創造の可能性を研究し、子どもが生み出すアートピースとの合作も試みている。



9/10(火) 19:00~20:15

みかんダイアログ vol.7

「コモンズ農園の未来構想図

-省農薬農業の取り組みから学ぶ-

参加費：無料

定員：なし

オンライン

「柑橘」について深掘りするオンライントークセッション、みかんダイアログ第7弾！

今回は、「コモンズ農園の未来構想図」をテーマに、下津きょうだいまかん山の園主・大柿肇氏をお招きして、農薬中毒に起因する若者の死をきっかけに省農薬栽培を始めるようになった経緯や取り組みについて伺います。また聞き手には「コモンズ農園」プロジェクトを実施しているアーティスト廣瀬智央氏を迎え、アートの視点から私たちが目指すべきコモンズ農園について一緒に考えます。

ゲストスピーカー：大柿肇(おおき はじめ)

下津きょうだいまかん山の第三代目園主。広島県生まれ。長年勤めたアパレル業界を退職後、趣味のロードバイク仲間から紹介を受け、2018年に園主として就任。下津きょうだいまかん山は、1968年に農薬中毒で亡くなった17歳の高校生の死をきっかけに、京都大学農薬ゼミとともに農薬を出来るだけ使わない省農薬ミカンを栽培している。



9/15(日) 13:00~15:00

「べたべたもによもによ」

参加費：無料(施設入場料あり)

定員：20名

南方熊楠記念館 / AREA MAP-⑥

本ワークショップでは、南方熊楠、粘菌研究者の唐澤先生を講師としてお招きし、樹脂粘土を使って南方熊楠記念館エントランスの大きなガラス窓に粘菌の脈動を表現します。自分の手指の感覚と粘菌の動きを重ね合わせながら、カラフルな粘土を捏ね、貼り、つけていきます。ときどき顕微鏡で実物を観察しながら、また離れて見たり、裏側(外側)から見たりしながら、最終的にみんなで一つの形を作っていきます。うねうねをつなげ、重ね合わせながら大きな粘菌を表現しましょう。

ゲスト講師：唐澤太輔(からさわ たいすけ)

1978年、兵庫県神戸市生まれ。秋田公立美術大学美術学部アーツ&ルーツ専攻ならびに大学院複合芸術研究科准教授。専門は、哲学、文化人類学。特に、人類が築き上げてきた民俗・宗教・文化の根源的な「在り方」の探求を、知の巨人・南方熊楠(1867~1941年)の思想を通じて行っている。近年は、熊楠とアートの思考の比較考察、及び華嚴思想の現代的可能性についても研究を進めている。2019年、第13回湯浅泰雄著作賞受賞。

